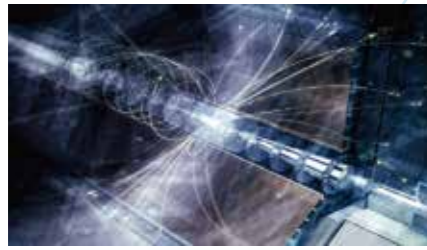


描く未来

国際リニアコライダー計画

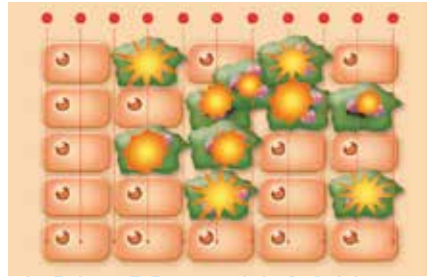


Rev. Hori氏提供

世界最高エネルギーまで、電子とその反粒子である陽電子を直線状に加速して正面衝突させる実験装置です。物質の質量の起源と考えられるヒッグス粒子を大量につくり、究極の自然法則と宇宙の始まりの謎の解明を目指します。



加速器を使った新しいがん治療法



筑波大学陽子線医学利用研究センター提供

BNCT(ホウ素中性子捕捉療法)は、中性子と反応しやすいホウ素をがん細胞に取り込ませ、中性子線を当ててがん細胞だけを破壊できる理想的な治療法です。普及を目指し、加速器の開発を進めています。

人材育成

大学院などへの教育協力、総合研究大学院大学の基盤機関としての人材養成のほか独自の取り組みにより加速器科学の開拓を担う人材を養成しています。

産学連携・社会貢献

民間企業との共同研究や技術移転などを行い、KEKで開発された成果をイノベーションを通じた社会貢献につなげます。つくばの研究機関を中心としたTIAの連携により、知の創出から産業化までを推進しています。

SDGs(持続可能な開発目標)

KEKは教育、エネルギー、平和などSDGsの目標を強く意識して研究、教育、社会貢献などの活動を進めています。

茨城県東海村にある加速器施設「つくば(KEK)への見学ツアー



KEKの概要

名称	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構	事業内容(2023年度)	共同利用実験研究者の受け入れのべ49,788人日 (うち海外研究機関より15,854人日)
創設	1971年、高エネルギー物理学研究所として	予算(2024年度計画)	約405億円
所在地	つくばキャンパス 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1 029-879-6047 東海キャンパス 〒319-1106 茨城県那珂郡東海村大字白方203番地1 029-284-4851	人員 (2024年4月1日現在)	役員・職員 1,122人(定年制職員以外も含む)
		ウェブサイト	https://www.kek.jp/ja/

加速器だから見える世界。

高エネルギー加速器研究機構(KEK)は加速器という「スーパー顕微鏡」で分子、原子、原子核、素粒子のスケールで世界を観察しています。

詳細情報や動画は2次元コードから



寄附のお願い

いっしょに未来を創ろう

「加速器だから見える世界」を広げるため、教育、研究、社会貢献活動を加速していきます。科学技術の発展に皆様のご協力をお願いします。



<https://www.kek.jp/ja/>

公式SNS更新中



@kek_jp



@KEK.JP

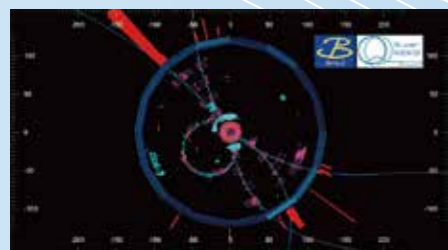
2024年6月発行

KEK 大学共同利用機関法人
高エネルギー加速器研究機構

宇宙の始まりを見る

宇宙の謎をひも解く

新物理を探す

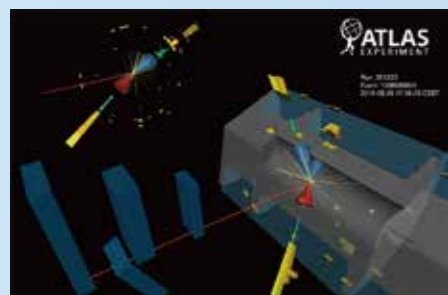


Belle II実験では、KEKのSuperKEKB加速器で電子と陽電子(電子の反粒子)を衝突させ、できた粒子の崩壊を調べることで未解明な宇宙の謎を解く鍵となる新しい物理現象を探しています。



巨大加速器で初期宇宙の

謎に挑む



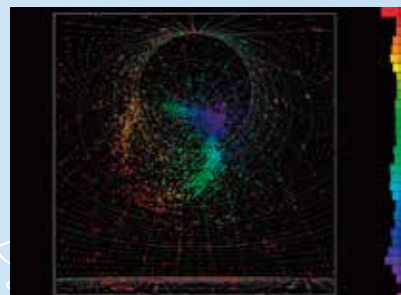
ATLAS Experiment © 2021 CERN

欧州合同原子核研究機関(CERN)のLHC加速器で行われているATLAS実験では、世界最高エネルギーの陽子と陽子を衝突させて、誕生直後の宇宙を人工的に再現し、宇宙初期を支配していた未知の素粒子などを探します。



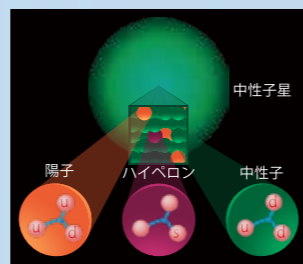
宇宙から反物質が消えた謎に

ニュートリノで迫る



© The T2K Collaboration

T2K実験では、茨城県のJ-PARCでつくられたニュートリノビームを、295km離れた岐阜県のスーパーカミオカンデ検出器に向けてうち込みます。ニュートリノと反ニュートリノの性質の違いを測定し、宇宙誕生時に物質と同じだけ存在したはずの反物質が消えた謎に迫ります。



原子核をつくる力に迫る

陽子・中性子の仲間の奇妙な粒子「ハイペロン」を加速器でつくり、それらの間にはたらき調えています。この研究は、宇宙の歴史の中でさまざまな原子核ができた謎や、「巨大な原子核」ともいえる中性子星の内部構造の解明にもつながります。



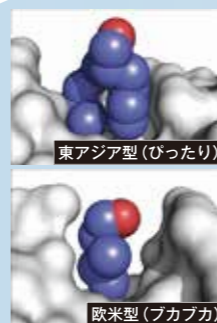
加速器で“見る”

自分の尾を飲みこもうとしている蛇の姿は古来、ウロボロスと呼ばれてきました。極微の素粒子の姿が広大な宇宙の始まりにつながる自然界は、こうしたウロボロスの姿と見ることができます。KEKではこのようにぐるりとつながった世界を加速器で見えています。



アジアに胃がんが多い理由

ピロリ菌がつくる胃がんの原因物質CagAの構造を放射光X線で解析すると、東アジア型の菌ではがんの原因となるタンパク質にCagAがぴったりはまり、発がんにつながるわかりました。欧米型の菌ではフカブカで、アジアに胃がんが多い理由と考えられています。



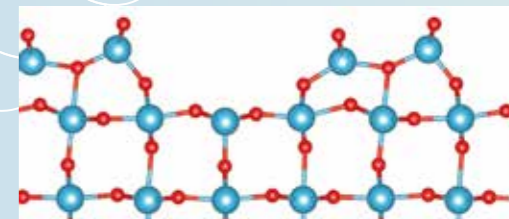
東アジア型(ぴったり)

欧米型(フカブカ)

物質の成り立ちを見る

光触媒表面の

でこぼこ

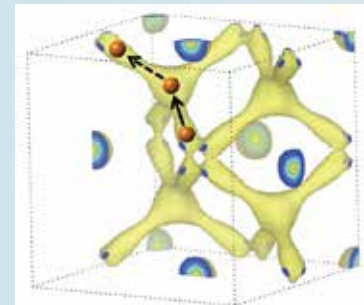


光触媒は光が当たる表面で作用します。代表的な光触媒、酸化チタンには表面の原子の並びが詳しくわかっていないものがありましたが、陽電子線を表面すれすれに当てて全反射させて調べると、意外にも非対称な配列だとわかりました。



未来の電池の

電気の流れ



丈夫で長持ちな次世代電池として期待される全固体電池。その有力候補フッ化物イオン伝導体の中で、原子がどう並び、イオンがどう流れるかを中性子回折実験でとらえた様子です。次へのヒントにつながります。



天保小判の金と銀

壊したくない貴重な試料はミュオンで分析します。ミュオン特性X線で内部の元素分布を調べると、金色に光る小判も表面の下には銀が多いことがわかりました。メッキではなく、「色付」という江戸時代の金座の職人技です。



国立歴史民俗博物館提供



生命の不思議を見る